MELON
情報紙
Miyagi Environmental Life Out-reach Network
2018年1月★第124号

「ポスト真実」の時代？

理事長 **長谷川 公一**

理事長　長谷川公一

イギリスのオックスフォード大学出版局は世界でもっとも権威のある学術書出版社の１つです。全23巻からなるオックスフォード英語辞典を刊行しています。オックスフォード大学出版局は毎年「今年の言葉」(Word of the Year）を選んでいます。いわばイギリス版流行語大賞です。

2016年11月25日に発表されたのは「ポスト真実（Post-truth)」という言葉でした。「世論形成にあたって、感情や個人的信条へのアピールに比べて、客観的な事実の影響力が弱まりつつあるような状況」を指す形容詞とされています。ポストはここでは、それに続くある概念（この場合は「真実」）が重要性を低下させる時代に入ったという意味です。この言葉は、1992年にはじめて用いられたそうですが、2016年には、イギリスの国民投票でのEU脱退の決定、アメリカ大統領選挙でのトランプ候補の勝利などに関連して、前年比で20倍も頻度が増大しました。「我々はポスト真実の世界に入った、もう戻れない」。トランプ勝利の翌日、イギリスのインデペンデント紙のツイートです。詳しくは、https://en.oxforddictionaries.com/word-of-the-year をご覧ください。

事実かどうかという客観的な決め手が弱まれば、感情や憎悪が先立ち、結局は財力と腕力が物を言うことになります。ツイッターやフェイスブック、ブログなどでいちはやく「言った者勝ち」になります。真実か否かよりも、リツイートの回数、「いいね」の回数が意味を持ちます。アメリカでは、大統領就任後、トランプ支持者と批判者との間の対立・分断がいよいよ深まりつつあります。首相支持者と批判者の間の対立・分断は、日本においても同様に深刻な問題です。

インターネットやSNSは便利ですが一方で、対話のための共通の土俵づくりに不可欠な「知性」や「真実」を後景に退かせるという残念な帰結を生み出しつつあります。理想や希望を語ることがいよいよ困難な時代になりつつあります。

アンデルセンの童話『裸の王様』では、「王様は裸だ」と叫ぶ無垢な子どもたちによって、王様は我に返ります。現代版『裸の王様』は「裸のどこが悪いんだ。裸だってもう一つのドレスだよ」と居直っているかのようです。「ポスト真実」という『裸の王様』に対抗する術を、私たちは見出すことができるでしょうか。持続可能な未来を切り拓くためには、「ポスト真実」との粘り強い闘いが必要です。

困難な時代だからこそ、あなたのおカが、あなたの支えが必要です。新しい年も、引き続きご支援をお願いいたします。　（2017年12月1日）

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ――通称『MELON』。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため１人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。
MELON会員特典
- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
- ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
- ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが１個もらえ、５個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
- MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
- メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。

～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

P1　新年のご挨拶　「『ポスト真実』の時代？」
P2　オーガニックを仙台で楽しもう ～オーガニックを味わい、感じ、未来を変えよう～
P3　薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ ／秋の森で遊ぼう！ in川崎町貸森林
P4　ワケルくんバスで行く！環境施設見学会「ごみのゆくえを見てみよう！」 ／かんきょう見聞記「貧乏とゆたかさ」
P5　協同組合からのお知らせ ／目指せ100人！環境リレートーク　大森玲子さん
P6　ストップ温暖化センターみやぎ通信
P7　仙臺農塾／ MELONcafeプチ講座
P8　トピックス／イベント一覧／編集後記

オーガニックを仙台で楽しもう
～オーガニックを味わい、感じ、未来を変えよう～

日　時：11月11日（土）10：30～16：00
場　所：市民活動シアター（仙台市青葉区一番町4丁目1-3仙台市市民活動サポートセンター地下1階）
主　催：オーガニックウィーク実行委員会（特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク、朝市・夕市ネットワーク、せんだい食農交流ネットワーク、MELON）
来場者：48名
プログラム：「ザ・トゥルー・コスト～ファストファッション真の代償～」上映、講演会、トークセッション
講　師：作吉むつ美さん（一般社団法人日本オーガニック検査員協会代表理事）
トークセッション：作吉むつ美さん、和田智子さん（ともちゃんの野菜畑）、田原雅仁さん（六根舎）、高橋芳道さん（特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク事務局長）
ブース出展団体：カネサオーガニック味噌工房、ともちゃんの野菜畑、六根舎

記念撮影は、ずんだもちぃ～！

2016年から始まった「オーガニック・ウィーク・センダイ」。2年目の今年は、まだまだオーガニック※という言葉になじみがない一般市民の方々に、化学肥料や農薬を使わない自然にも人にも優しいオーガニックを選ぶことで、自分自身や家族の健康はもちろん、地球環境にも優しいライフスタイルを選択することにつながる、ということを知ってもらうきっかけになるようにとイベントを開催しました。

私たちが着ている服は、どういった環境で、どのような人たちが作っているのか。普段の生活では知ることのできない裏側に焦点を当てた映画の上映では、多くの方が刺激を受けたようでした。上映後の感想では、安価で大量に購入できる衣服に対して扱いを見直そうという声や、こういった問題は衣服に関してだけではないとの声がありました。

綿くり作業を体験する来場者

続いての講演では、本物の綿花を手に取りながら、綿と種を分別する機械の操作方法や、オーガニックコットンの栽培から加工までにどのくらいのコストがかかるかなどのお話がありました。それらを知ると、市販されているオーガニックコットン衣類の価格が高い理由もうなずけます。物の価値の裏側に何があるのか、本当に価値があるのかなど、普段の生活でも意識する必要があるのではないでしょうか。

オーガニックコットンの服に身を包む作吉さん

最後のトークセッションでは、オーガニック認証の必要性や付加価値、実際にオーガニック認証を取得している方からの意見などがありました。この場だけのお話しもあり、盛り上がりつつも和やかな雰囲気で意見交換されていました。

オーガニックとは何か？を知ってもらうためには、継続してこのような活動を実施し、多くの人にそれを認知してもらう必要があると思います。すぐにオーガニックを取り入れたライフスタイルへ移るのは難しいかもしれませんが、きっかけ作りになるような取り組みを続けたいと思います。

※ここでのオーガニックは、有機JAS認定を受けたもの以外にも、将来有機JAS認定を取得するために取り組んでいる、もしくは取得していないがそれと同等の取り組みをしているものを含む

第4回みちのく薪びと祭りin宮城なるこ　木を使って森を元気に！ ～薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ～

日　時：11月18日（土）10：00～15：00
場　所：あ・ら・伊達な道の駅（大崎市岩出山）
来場者：約600名

冬の寒さが厳しい東北では、暖房器具が欠かせません。間伐材の有効活用を推進するため、薪ストーブ、ペレットストーブの暖かさを体験してもらうフェスタを開催しています。今回は東北各県において薪の使用を推進してきた「みちのく薪びと祭り」と共催です。

各ストーブの展示はもちろん、大崎市が取り組んでいる蕪栗沼の葦を使った「ヨシペレット」の展示、ペレットボイラーで沸かす足湯、薪窯ピザの提供などを行い、道の駅にちょっと立ち寄った観光客にも「薪・ペレット」を知ってもらう良いきっかけとなりました。アンケートを集計すると、いつもフェスタを開催している勾当台公園の時より薪ストーブ・ペレットストーブを設置しているお宅が多く、回答者の4分の1の方が設置済み。来場者からは「前からストーブをつけたいと思っていて参考になった」という感想があり、今後設置したいと考えている人も多かったです。道の駅を観光しつつ、薪やペレットで心も体もあたたまったイベントとなりました！

薪オブジェの前で、薪の歌を熱唱♪

薪ストーブの説明を熱心に聞いてました！

薪窯のピザはあつあつ！

出展協力団体
石村工業株式会社、有限会社庵原林業（薪の庵）、
株式会社ウェスタ、大崎市産業経済部産業政策課、大崎森林組合、
加美町、特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会、
カントリーログ仙台、株式会社くりこまくんえん、
株式会社サスティナライフ森の家、有限会社シモタニ、
特定非営利活動法人しんりん、有限会社髙橋建設二級建築士事務所、
株式会社ディーエルディー、東北環境パートナーシップオフィス、
株式会社徳田工務店、有限会社デクソン仙台、豊臣工業株式会社、
北越融雪株式会社、みちのく薪びとまつり、宮城県森林組合連合会、
みやざきの恵みをいかす会、守屋木材株式会社、やくらい薪の会

「秋の森で遊ぼう！ in川崎町貸森林」

日　時：10月28日（土）9：00～15：30
場　所：川崎町貸森林（川崎町前川）
講　師：エコ・森林（宮城県地球温暖化防止活動推進員グループ）
　　半澤夏実さん（野遊びコンシェルジュ）
参加者：16名

毎年開催している「森で遊ぼう！」講座。今年度は自然を通して子どもの健全な育成を目的とした「平成29年度子どもゆめ基金助成活動」の一環として実施しました。薪割り、ターザンロープやブランコ、竹笛作りを体験。初参加の方が多く、思いきり森を楽しんでいました。今回初めて「野遊び」の体験をするプログラムも実施しました。お題は、森にある植物で「絵日記」づくり。赤く色づいた葉っぱや、変わった形の葉っぱ、木の実などをたくさん拾い、画用紙に貼りつけました。発表ステージは、黄色に紅葉した「朴（ほお）の木」の下。穴が開いた葉っぱを顔に見立てたり、お昼に食べた味付けご飯を葉っぱで表現した参加者もいました。

紅葉がきれいな、秋の森を楽しみました！

森にある植物をよく観察する機会はとても少ないと思います。親子で植物それぞれの表情を見て絵日記にしたことで、自宅でも森の植物たちとの楽しい会話を思い出してくれそうです。

ワケルくんバスで行く！環境施設見学会「ごみのゆくえを見てみよう！」

日　　時：11月29日（水）9：50～15：50
見学場所：新港リサイクル株式会社、
　　株式会社ステップスナイン、今泉工場
参 加 者：34名

プラスチックごみの中に
たくさんの異物が！！

プラスチックごみは
パレットにリサイクル

毎年、家庭のごみ減量を目的に行っているごみ処理施設見学会。今回は3か所の施設を見学しました。新港リサイクル株式会社は、各家庭から出るプラスチック製容器包装をリサイクルする施設です。1日約50ｔ回収し、手作業で異物を取り除き、併設の工場でパレットにリサイクルしています。中身がたっぷり入ったソース容器やビン、ドライヤー、大きな石などは不適物としてはじかれます。作業している方は、しっかり分別することと、中身の入った容器は使い切り、軽く水ですすいでほしいことを訴えていました。

株式会社ステップスナインは、紙類定期回収や集団資源回収、事業所から集められた古紙を選別、梱包し、製紙メーカーに卸す古紙回収問屋です。仙台市の雑紙も回収しています。生活ごみ全体の半分近くが紙類で、分別すればリサイクルできる資源です。雑紙の中によく間違えて入ってくるものは「写真」「撥水加工をしている紙のヨーグルト容器・紙コップ」「圧着はがき」など。これらは家庭ごみに分類されます。

家庭ごみの焼却施設である今泉工場では、１日600ｔのごみを処理しています。「紙類」や「プラスチック製容器包装」は貴重な資源なので家庭ごみに入れないようにしてほしいとのことでした。ごみを出す時は処理に携わる方の苦労にも思いを馳せて、しっかり分別しなくてはいけないと実感した一日でした。

貧乏とゆたかさ

落語篇⑦
古今亭志ん朝
「黄金餅」
石垣政裕（MELON理事）

西念という、入った物ならトゲさえ出さないというとてもケチな坊さんがいて、病気になる。見かねた味噌売りの金兵衛という男が、心配して「なにか喰わねぇと」と言うと「あんころ餅が食べたい」。金兵衛があん餅をたらふく買ってきて西念に与え、陰からそっと様子を見ている。なんと、西念はあん餅からあんを取り出すと、餅にこれまで一所懸命に貯めてきたお金を詰めて、すべて飲み込んでしまった。西念は苦しみ死んでしまうのですが、金兵衛はなんとか死体からそのお金をせしめようとする。

古今亭志ん朝の語り（落語名人会21　古今亭志ん朝13、ソニー・ミュージックエンタティメント、1995年10月）は『物語』をぐいぐいと前へ進めるリリシズムに満ちています。そこには、物乞いをしてせっせと貯めたお金に執着する姿、それをせしめようとする『貧しい』生活が浮き彫りにされています。

さて今、世界の海、そして日本の海でも大変なことが起きています。これまでも魚や海鳥のお腹の中からプラスチックが見つかっていますが、さらに最近、大きさが5mm以下の、マイクロプラスチックが深刻な問題となっています。これにはゴミとして捨てられた物がさまざまな環境の中で細かくなったり、また台所のスポンジであったり、洗顔料など人工のポリマーだったり、いろいろな原因が考えられます。それらは表面に漂うだけでなく、海底の沈殿物や魚の体内からも見つかっています。「プラスチックスープの海」という、はっとするタイトルの本もあります（チャールズ・モア、カッサンドラ・フィリップス著、海輪 由香子訳、NHK出版、2012年8月）。

『便利な』生活、『美しい』生活をめざしてプラスチックを使い続けている私たちは、知らず知らずのうちに、『黄金餅』の西念と同じような『貧しい』運命に海洋の生物たちをさらしているのに違いありません。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

コープのでんき「COCOENE（ココエネ）」が始まりました！

秋田の風車

みやぎ生協は原子力発電に頼らない社会の実現を目指して、地球温暖化防止問題に向き合い再生可能エネルギーの普及拡大をすすめています。16事業所で太陽光発電設備の導入をすすめ、秋田の風力発電事業、岩手の木質バイオマス発電事業、福島富岡復興ソーラー発電事業に参画しています。また、ほとんどの事業所は再生可能エネルギー比率の高い株式会社地球クラブから電力を購入しています。

電力小売り自由化にともない、組合員に向け2017年11月から再生可能エネルギー（FIT 電気）の比率が75％の電気の小売り事業を開始しました。これには、秋田、岩手、福島などの地域でつくられる「地産地消費」の電気も含まれています。電気を自由に選べる時代、地球温暖化やエネルギーの自給率なども考えながら電気を選びたいですね。

＊料金がお得で再生可能エネルギー比率が17％の「コスパでんき」のプランもあります。東北電力のFIT 電気比率13％（2016年実績）より、再生可能エネルギー比率は高くなっています。

目指せ100人！
環境リレートーク

第67人目の執筆者
大森　玲子さん

自然の中で生きることを学ぶ入口。そんな場所を作りたいと思いました。

ずっと虫を眺めていても、大声で空に叫んでも、皆と畑仕事で汗を流しても、でっかい秘密基地を作ってもいい。多少のケガやアクシデントで自然との付き合い方を学びながら、思いっきり遊んでるうちにいつの間にかたくましくなっちゃった、元気になっちゃった。何もない、何をしろと言われない、したいことを好きなようにできる場所。大人も子どもも忙しい毎日、知識や情報を詰め込むのでなく、頭を空っぽにして、体の中から湧いてくる声を聴いてみる。そんなふうにして、ゆっくり生きる力を育んでいくことが、今の世の中大事な気がします。

小高い丘の上、スギ林に囲まれた畑の一角を、20年程前から自分たちの野菜や花の栽培以外にも、ブルーベリー園や市民農園を作ったり、暮らしに使える有用樹を集めたり、仲間とキャンプや演奏会を楽しんだり、学びや遊び、交流の場として利用していました。しばらく手が回らず荒らしてしまいましたが、2年程前から「ゴーシュの森」と名付けて、もう一度手を入れ始め、2017年にはツリーテラスや焚火小屋も作り、やっと少し“らしく”なってきました。

これからここで少しずつ、小さな催しをしながら、森を生かしてくれる人たちとつながっていきたいと思っています。

＜連絡先＞
びいなす　ふぁあむ　大森玲子
住所：柴田郡川崎町大字前川字裏丁34
Tel/Fax：0224-84-4911
Facebook：びいなす　ふぁあむ

… 次号執筆者紹介 …
石塚武夫さん（石塚養蜂園　代表）

ストップ温暖化センターみやぎ通信　Vol.79

推進員活動の活性化に期待！～ 8年ぶりに新規推進員の募集＆養成研修を実施～

宮城県では、現在47名の推進員が地球温暖化防止のための正しい知識・対策を普及させるため県内で活動しています。2009年以来新規推進員の募集が中断していましたが、今年度宮城県委託事業として8年ぶりに新規推進員の募集＆養成研修を再開しました。

推進員同士交流しながらコミュニケーションについて学びました（第2回研修）

7月から8月に募集を行い26名が応募、10月から12月にかけて3回の養成研修を実施。地球温暖化の基礎知識やコミュニケーション力を、座学やワークショップを通して伝えました。また、最後の3回目は現推進員との合同研修を行い、推進員活動やツール紹介を行いました。現推進員と交流しながら学ぶことで、推進員活動へのイメージやアイデアを膨らませているようでした。

「推進員としてやってみたいこと」をテーマに、新規と既存の推進員が混ざりグループワーク（第3回研修）

今回の養成研修を受講した新規推進員は、2018年4月に宮城県知事から委嘱され、推進員活動を始めます。4月から新しい推進員を迎え、宮城県の推進員活動のさらなるパワーアップを目指します！

おすすめCOOLCHOICEを紹介！ ～「みやぎクールチョイスカレンダー2018」完成～

宮城県の家庭から排出されるCO_2は、自家用車が最も多く、次いで給湯、暖房と続きます。光熱費も全国に比べガソリン代や灯油代が多く、年間光熱費は全国よりも約7万円も高いです※。でも「どうしたらCO_2や光熱費を減らせるの？」と思っていませんか？

普段の生活を少し工夫することで、楽しく快適に過ごしながらもCO_2も光熱費も減らせる暮らしを提案するのが、今年度推進員と協力し作成した「みやぎクールチョイスカレンダー2018」。月ごとに季節に合わせたおすすめの「COOL CHOICE（=賢い選択）」を紹介しています。無料配布していますので、ご希望の方はストップ温暖化センターみやぎまでお問合せください（数に限りがあるため無くなり次第終了となります）。

見開きA3サイズで壁掛けにぴったり！

※P.8の円グラフ「2016年度宮城県うちエコ診断結果」参照

推進員だより No.25

第1回北海道・東北ブロック推進員研修

日　時：11月18日（土）10：00～16：00
会　場：仙都会館　会議室5階B会議室
参加者：28名

今回初めて、北海道・東北の地域センタースタッフと推進員が一同に集まる研修会を実施しました！午前は講演会、午後は活動発表やワークショップ。1日かけて行われた研修では推進員もスタッフも地域分け隔てなく意見交換をすることができ、これからの活動に向けてたくさんのヒントや刺激を貰った1日となりました。

グループワークでは活発な意見交換が行われていました

仙臺農塾　大人の食育プロジェクト

第1回「椎茸がつなぐ、里山今昔物語」
日　時：10月11日（水）19：00～21：00
会　場：Star garden
（青葉区中央4-9-7井上ビル2階）
ゲスト：芳賀裕さん
（森のきのこ運営責任者）
参加者：18名

第2回「自然に寄り添うお米作り
～土と植物と、あとは人の手間だけ～」
日　時：11月8日（水）19：00～21：00
会　場：地酒地料理　太左ェ門
（青葉区国分町2-15-2グランパレビル1階）
ゲスト：太田俊治さん
（無肥料・自然栽培実践農家　米の太田屋代表）
参加者：18名

6年目に入った「仙臺農塾」、第1回目のゲストは、登米市東和町で地域のネットワークを大切にしながら原木椎茸栽培に取り組む芳賀裕さん。きっかけは、農家の方が自信をもって野菜を作っている元気な姿をみて、自分も地域資源を生かして地元をPRしたいと思ったから。しかし震災による放射能汚染の影響でホダ木はほぼ全滅。やめようかと思ったけれど思いは変わらず、除染したり、九州など汚染地域外からの原木を購入したり、試行錯誤しながら取り組み続けています。原木椎茸は時間がかかる分、旨味が全然違います。当日の料理にはデザート含め全てに椎茸が使われており、椎茸が苦手な参加者からも美味しかったという感想が聞かれました。購入することでぜひ応援していきたいです。

除染作業にもへこたれず、
いつも明るい笑顔の芳賀さん

自分の体は、自分が口にした物から作られる。だからこそきちんとした物を食べたい、そう気づかせてくれたのは、第2回ゲストの太田俊治さん。元々兼業農家でササニシキを作っていたそうですが、どうも作りづらいと悩んでいました。そこで出会ったのが、「亀の尾」や「ササシグレ」といっためずらしい品種。亀の尾の孫がササシグレ、その子どもがササニシキに当たります。以前は減農薬でお米作りをしていましたが、お米アレルギーの方や自然栽培を実践されている方との出会いを通じ、自分のお米を食べてくれる相手のことを考え、無肥料・無農薬の自然栽培で取り組むようになったそうです。「食は命をつなぐもの」そのことを改めて気づかせてもらえた講座となりました。

家飲み用の隠し酒を持ってきてくれました！

MELONcafe

「インテリアにおすすめ♪間伐材で作る小物スタンド」
日　時：10月14日（土）13：30～14：30
会　場：MELON事務局

一度人が手を加えた森林は、手入れし続けないと荒れてしまうことをご存知ですか？今の日本では森林の活用が求められているそうです。森林を身近に感じてほしい、まずは木に興味をもってもらおうと、間伐材で作った小物スタンドを木の実で飾りつけるプチ講座を開催しました。

当日準備したのはカラマツ、コウヨウザン、メタセコイア、モミジバフウの実。シダーローズ（ヒマラヤ杉の実の先端）、ツルウメモドキ、ドングリ、紅葉したハナミズキの葉っぱ。参加者は見たこともない木の実が多かったようです。今回使った木の実は街中や近所でも見つかります。普段何気なく歩いている道の街路樹に目を向けてみてください。秋は、下を向いて歩くとかわいい木の実を見つけることができるかもしれませんよ。

さまざまな木の実で飾りつけ♪

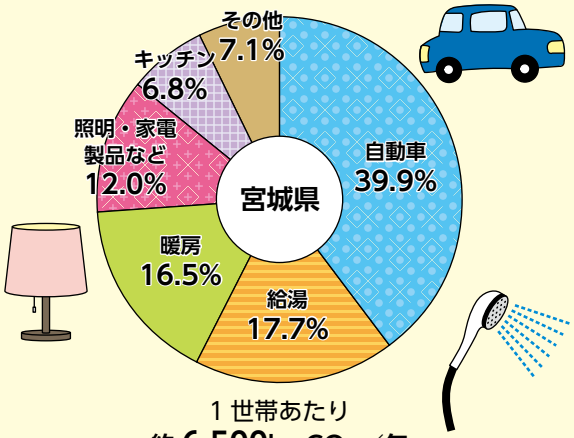
うちエコ診断 受診者大募集!

地球温暖化防止のためには私たちの家庭から排出しているCO_2削減も重要ですが、普段生活している中でどれくらいCO_2を排出しているのか意識しにくい上、目に見えないCO_2をどうやって削減するのか分かりませんよね。

しかし「うちエコ診断」を受診すれば、家庭のCO_2排出状況を見える化！さらに、省エネのスペシャリスト「うちエコ診断士」が各家庭に効果的な省CO_2対策のコツを教えます！

例えば、宮城県の家庭からのCO_2排出量第3位の暖房では、外出や就寝時の各30分前、計1時間暖房を止めるだけでも年間100kgのCO_2を削減することができます。それ以外にも各家庭のCO_2排出状況に合わせオーダーメイドの省CO_2対策をご案内いたします♪

詳細はストップ温暖化センターみやぎまでお問合せください！



1 世帯あたり
約 6,500kg-CO_2 ／年
データ元：2016 年度うちエコ診断結果

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/14（日）	「なっ得！発見！みやぎ環境フォーラム（『ダメだっちゃ温暖化』宮城県民会議フォーラム）」開催
2/1（木）	MELONcafe 企画部　例会
2/8（木）	4R 推進部会　例会
2/10（土）	水部会　例会
2/14（水）	仙臺農塾 Vol.6 第 3 回「宮城の海から発信！ホヤホヤなホヤ話」開催
2/20（火）	食部会　例会
2/22（木）	情報センター　例会
2/24（土）	MELONcafe プチ講座「米粉で簡単♪桜もち＆イチゴ大福作り」開催
3/3（土）	「さらに森に行きたくなる！親子の森遊び in 向山子ども園」開催
4/11（水）	仙臺農塾 Vol.6 第 4 回「駒米さんのもふもふ羊放牧物語」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

編集後記

■昨年6月から8か月間、MELONで活動してきたインターン生が1月末で終了します。積極的に活動してくれたことへの感謝とともに、さらなる飛躍を期待しています！（古林）

■12月より事務局スタッフの一員となりました。自然の中でのびのび過ごすのが大好きです。今は合唱に、はまっています。好奇心旺盛なので、色々な分野を学んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。（山形裕昭）

■こんにちは、山形さんと同じく12月1日より働き始めました新人です。生まれも育ちも仙台ですが、長らく離れており、2011年10月に戻りました。よろしくお願いします。（三浦明美）

〈会員状況〉

	624 名
法人	68
任意団体	10
個人	546

2017 年 11 月 29 日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1 ポイント差し上げます。5 つ貯まると 1,000 円分の MELON 協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元　公益財団法人　みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）Miyagi Environmental Life Out-reach Network
〒 981-0933　仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F
★事務局　TEL 022-276-5118　FAX 022-219-5713
★情報センター　TEL 022-301-9146　FAX 022-219-5713
★ストップ温暖化センターみやぎ　TEL 022-301-9145　FAX 022-219-5710
E-mail　melon@miyagi.jpn.org　URL http://www.melon.or.jp/melon/
落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。

RICE INK ®
この印刷物は、輸送マイレージ低減による CO_2 削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。
※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。